

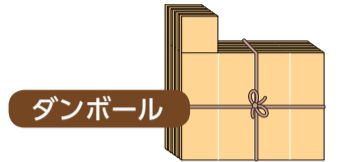
「雑紙（ざつがみ）」を含めた古紙の適切な分別回収を行い、可燃ごみの減量化を進めよう

持続可能な開発目標（SDGs）には、グローバル目標12として「持続可能消費と生産形態を確保する」ことが盛り込まれています。その実現をするターゲット12.5として「2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する」ことが掲げられています。



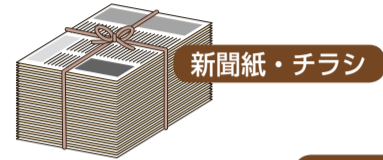
段ボール

段ボールのみ。たたんで、ひもで十文字にしばって搬出（テープなどは取り除く）
 →段ボールとして再生



新聞紙・チラシ

新聞紙と折込みチラシ（糊等が付着したものは混入しない）
 ひもで十文字にしばって搬出
 →新聞紙として再生



雑誌・書籍

雑誌・書籍は、ひもで十文字にしばって搬出
 →紙箱などの原料として再生



シュレッター紙

シュレッター紙は飛散しないように透明または半透明の袋に入れて搬出
 →トイレットペーパーなどの原料として再生
 ※機密文書としての排出日時等については部局担当者に相談



（ざつがみ）紙

コピー用紙等 再資源化可能な 不定形な紙・ 小さな紙

使用済コピー用紙、カタログ、パンフレット等は、重ねてひもで十文字にしばって搬出
 →紙箱などの原料として再生



紙箱、紙袋、包装紙、カレンダー、ポスター、メモ紙、ちぎれた紙・丸めた紙、トイレットペーパー等の芯、台紙、ファイル等の紙、封筒、はがき、名刺程度あるいはそれ以下の紙類等は、紙袋または透明あるいは半透明のポリ袋に入れて搬出
 →紙箱などの原料として再生



雑紙（ざつがみ）とは、段ボール、新聞・チラシ、雑誌・書籍、紙パック以外の再資源化可能な紙をいう。ただし、紙パックとは、500ml以上の牛乳パック等であるが、大学では発生量が少ないため区分はないので、雑紙（ざつがみ）のところに搬出



分別しないで「可燃ごみ」に混入すると、大学の出費は増えて、環境への負荷も大きくなります。分別・回収することによって、有価物となり再資源化されて有効利用されます。

雑紙（ざつがみ）として回収できるもの

使用済みコピー用紙	カタログ・パンフレット	紙箱	紙袋	包装紙	カレンダー	ポスター	メモ用紙等
トイレットペーパーの芯	台紙	封筒	はがき	名刺	ダイレクトメール	紙製ファイル	ノート

取出口のフィルム等は除く
 窓枠のフィルムは取り除く
 紙袋に入れる
 金属・プラスチックは取り除く

回収できないもの

防水加工された紙	紙でないもの	紙でないもの	付着物・臭いがついた紙	表面加工された紙	写真	バックカーボン紙	紙以外の付着物
紙以外の付着物	飲料容器	箔押しされた紙	圧着はがき	アルミ加工された紙	拭き取り紙	試験等にいった紙	シール

(紙コップ・紙トレイ) (PP製品：吸着材) (マスク) (食品、油、薬剤等) (食品包装材) (印画紙) (伝票) (プラスチック等)
 (CD付書物等) (200mlの紙パック) (箔紙、ガム等の包み紙) (親展はがき) (飲料用容器) (ペーパータオル等) (ろ紙等) (シールの貼られた紙)

可燃ごみの発生量は、増加しています。その中には、再資源化可能な紙類が多く含まれています。岡山大学では、2003年から雑紙（ざつがみ）回収を行っています。さらに、古紙の分別と再生利用について再確認を行い、廃棄物の発生量抑制に協力しましょう。岡山大学はSDGsを支援しています。